

2021年3月期中間期の業績について

■ 損益の状況

2021年3月期中間連結会計期間における経常収益は、前年同期比68億円減少し220億円となりました。その内訳は次の通りです。

有価証券利息配当金の減少等により資金運用収益は、前年同期比25億円減少し168億円となりました。役員取引等収益は、前年同期比17億円減少し35億円、その他業務収益は、金融派生商品収益の減少等により前年同期比20億円減少し9億円となりました。

また、経常費用は、前年同期比1億円減少し221億円となりました。その内訳は次の通りです。

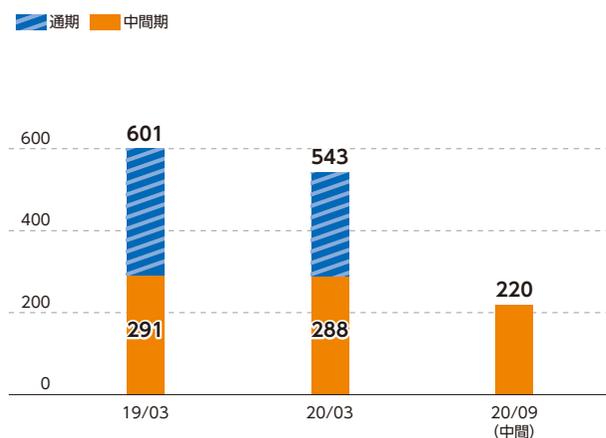
資金調達費用は、預金利息の減少等により前年同期比6億円減少し10億円となりました。役員取引等費用は、前年同期比1億円減少し19億円、その他業務費用は、外国為替売買損や国債等債券売却損の増加等により前年同期比8億円増加し8億円、営業経費は、前年同期比16億円減少し159億円となりました。また、前年同期に戻入であった貸倒引当金が、当期は19億円の繰入となりました。

上記要因により、経常損失1億円(前年同期は経常利益66億円)となりました。

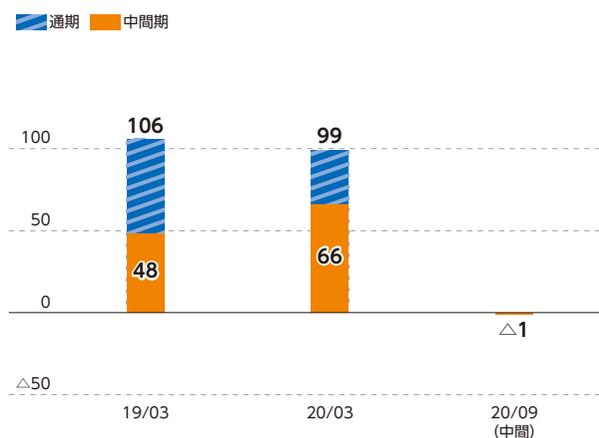
税金等調整前中間純利益は、固定資産処分損益が前年同期比29億円減少したことにより、0.3億円の損失(前年同期は税金等調整前中間純利益96億円)となりました。また、法人税等合計は、前年同期比27億円減少したことで、親会社株主に帰属する中間純利益は、2億円の純損失(前年同期は親会社株主に帰属する中間純利益67億円)となりました。

経常収益(連結)

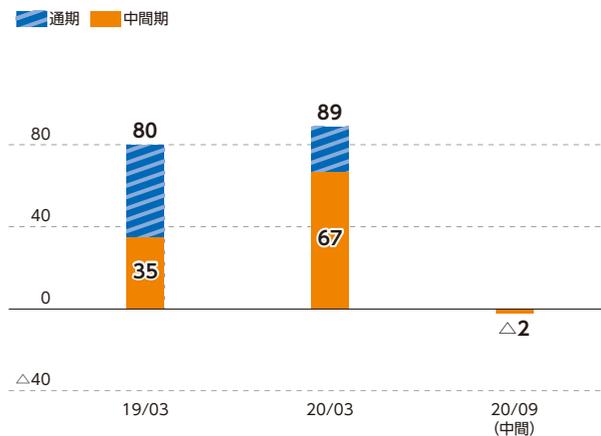
(億円)

経常利益(連結)
(△は経常損失)

(億円)

親会社株主に帰属する中間(当期)純利益
(△は親会社株主に帰属する中間(当期)純損失)

(億円)

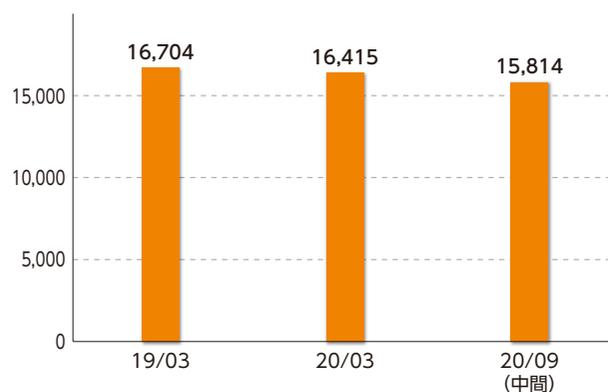


■ 財政の状況

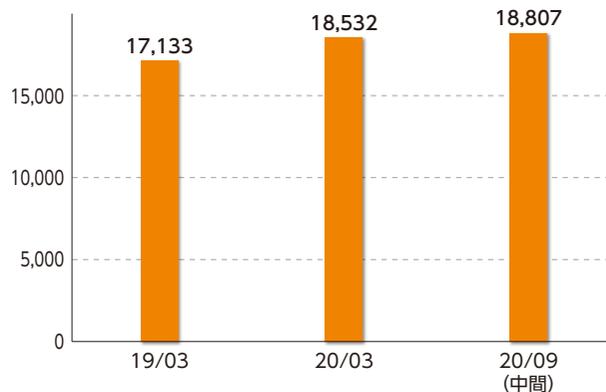
2021年3月期中間連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末比569億円減少し2兆3,629億円となりました。このうち貸出金については、前連結会計年度末比601億円減少し1兆5,814億円となりました。また、有価証券は、前連結会計年度末比

320億円減少し1,888億円となりました。負債は、前連結会計年度末比603億円減少し2兆1,969億円となりました。このうち預金は、前連結会計年度末比274億円増加し1兆8,807億円となりました。

貸出金残高(連結) (億円)



預金残高(連結) (億円)



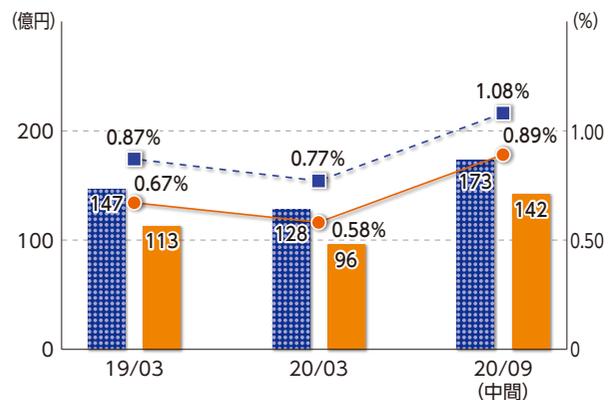
■ 不良債権比率

2021年3月期中間連結会計期間末における金融再生法開示債権比率(いわゆる不良債権比率)は、部分直接償却*を実施しなかった場合には前連結会計年度末比0.31%上昇し1.08%、部分直接償却を実施した場合には前連結会計年度末比0.31%上昇し、0.89%となりましたが、依然として低位で推移しています。

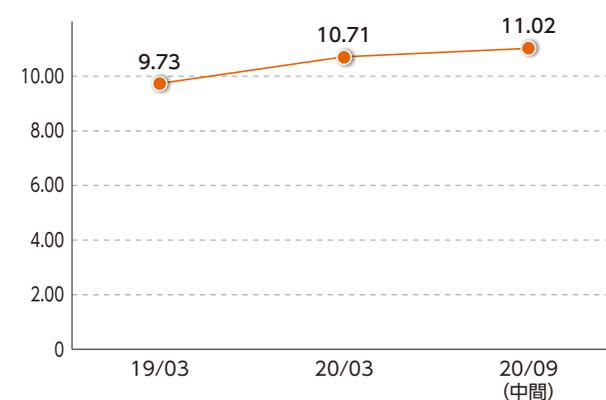
■ 自己資本比率

2021年3月期中間連結会計期間末の連結自己資本比率は11.02%となりました。当行ならびに当行グループは、国内業務のみを営む金融機関として、金融庁の告示に基づき4%の自己資本比率を維持することが求められておりますが、その基準を大幅に上回り、健全な水準を維持しています。

不良債権残高・比率(連結) (億円、%)



自己資本比率(国内基準、連結) (%)



部分直接償却*を実施しなかった場合 部分直接償却*を実施した場合
 不良債権比率 不良債権残高 不良債権比率 不良債権残高

*部分直接償却とは
 破綻先および実質破綻先に対する担保・保証付債権等について、資産の自己査定基準に基づき、債権額から担保の評価額および保証による回収が可能と認められる額を控除した残額を取立不能見込額として債権額から直接減額する会計処理のことをいいます。